

対話を重ね、進化に繋げる

代表取締役社長 今村 善信氏



大電産業

福井市春山1-6-15

国内で2024年から発生している商品の流通在庫の滞留など、事業環境には厳しさが続く。

そのような中、3回目の出展となった北陸技術交流テクノフェアでは、若手社員のユニークな発案を採用。ロボットと人間で作業の速さと正確さを競う実演が注目された。「人手不足に対応すべく、産業用ロボットや搬送行程の自動化などを新たな分野にも提案しており、これまでの努力が実を結びつつある」と明るい兆しを語る。

蛍光灯の製造、輸出入

が禁止される「2027年問題」では、照明器具のLEDへの光源転換に関する相談が増加中だ。

「ただ、全国的な需要急増に伴い、供給不足も起りつつある。お客さまに正確な情報をタイムリーに提供し、適切に対応していきたい」と気を引き締める。

「進化」をキーワードとした中期経営計画の最終年度、特に意識しているのは「対話」だ。「お客さまの経営環境が大きく変化し、ニーズも多様化している。それらを的確に受け止めるために

は、深いコミュニケーションをどれだけできるかがカギとなる。「社内でも、お互いの違いを受け入れながら話し合っていくことで、成功体験に捉われず、これからの事業の方向性を正しく見出していきたい」。得意先や仕入先、社員との対話を積み重ね、更なる進化へと繋げていく。

4月に創業80周年を迎える。その記念として、福井アリーナ整備事業への寄付を決めた。「賑わいづくりだけでなく、防災・減災など多岐にわたって活用できる施設。その建設に微力ながら協力したい」と地域貢献への強い意志も語る。